

STRAMONIUM／サンカラシ

Stram. は植物レメディであり、Acute マヤズムに属する。処方され過ぎている傾向があり、それはなぜかという、人の最も基本的な恐怖感である荒野に独り取り残されるというフィーリングと関わっているからである。

Stram. には独り置き去りにされた子供のような希望の無い感じがあり、危険を感じている。置き去りにされ、見捨てられ、恐ろしい場所に取り残されたという感じがある。荒野に独りである。この恐ろしい状況にあるということを突然つけつけられ、脳が働くことを拒絶する：自分のまわりに人がいるということを認識できない。そこにいる人なら誰であろうとまたどんな物であろうとしがみつく（“Child awakens terrified, knows no one, screams, clings to those near：子供が脅えて目覚め、誰もいないとわかり、叫び、手近のものにしがみつく” “Clinging to persons, furniture：人や家具にしがみつく”）。この恐怖状態にいと自分の周囲に人がいることに気づいたり、自分の周囲の物事を認識したりすることができないようである（“Familiar things seem strange：慣れ親しんでいる物が見知らぬ物に思える”）。自分がひとりぼっちで道に迷っているように感じ、この状況から抜け出そうと試みる。なんの支えもなく、助けを求めて叫び、パニック状態で切々と訴えたり懇願したり祈ったりする。

Stram. には “Fear, of darkness：暗闇を怖がる” “Desire, for light：光を欲する” という症状がみられる。暗闇とは不確かで希望のないものを表しており、そういった状況は Stram. には非常に恐ろしいものなのである。暗闇には危険が潜んでおり、Stram. は “Longing for sunshine, light and society：陽光や光や社会を切望する”。犬に攻撃されるとか噛まれるとかいう妄想がみられる：これは恐ろしい状況なのである。あらゆる出来事やあらゆる状況が、そして人間すらも犬のように思える（“Delusion, dogs, sees：犬がみえるという妄想”）、攻撃を受けているように思えるのである。まるで自分の周囲の全ての物事が有害なものであるかのように、自分が傷つけられているというフィーリングがある（“Delusion, injury, is about to receive：今にも自分が傷つけられるという妄想”）。Stram. の患者は医者に「先生、先週お薬を飲んでから胃の状態がひどくめっちゃめっちゃになりました。それがどれだけひどかったことか言い表せません。」と言うことがある。

物事が暗く悲観的で重苦しくなってくると Stram. は非常に脅かされる。危険や暗さや陰鬱な感じが無いときは、非常におしゃべりで良く笑ったり歌ったり踊ったりし、元気一杯だったりする（“Black and sombre, aversion to everything that is：黒く（不吉な）て陰鬱なこと全てを嫌う” “Weeping all night, laughing all day：一晩中泣き、日中は笑う”）。自分の事をたくさん話し、自分が勇敢であり何者も恐れないと豪語する（“Delusion, tall, he is：背が高いとい妄想” “Delusion, distinguished, he is：自分が優れているという妄想” “Delusion, devine, he is：自分は神聖な人間であるという妄想”）。しかし夜になると恐怖が生じてなにかにかまえる。同時に光がある時には、露わになることに対する恐怖や攻撃されやすいこ

とに対する恐怖が生じ、そのため暗闇を求めることになる。しかし、なにかが不確かであやふやである場合には光を欲する一未知のものを恐れる。Stram. には “Destructiveness of clothes, naked, want to be : 服を破き、裸でいたがる” というルブリクスがみられる。服の下になにも潜んでいないようにしたいのである。そして暗闇の中になにも潜んでいないようにしたいのである。また “Delusion, naked, he is : 自分が裸であるという妄想” がみられる。衣服という保護する覆うものがなく自分が守られておらず、攻撃にさらされやすいという感じがある。

恐怖や驚き脅えを感じると、激しくワイルドに反応する : “Wildness : 乱暴狂気、野生” “Violence : 暴力” “Striking : 人目をひく”。自分の病も含め自分が置かれている状況に非常に脅かされるために、それがちょっとでも再び表に出てくることを好まない。それをお終いにし根絶し破壊し絶滅してしまいたい (“Delusion, that he is the devil : 自分が悪魔であるという妄想” “Delusion, devils, sees : 悪魔を見るという妄想” “Kill, desire to : 殺したいという欲求”)。自分の問題に煩わされ脅かされており、それを終わりにしてしまいたいと思う。Stram. のアクションというのは常に全面的なものである (中間がないという意味?)。

他に “Religious affection, Bible wants to read all the day : 宗教に愛着。一日中聖書を読む” というルブリクスがある。身の回りに感じる暗闇やあやふやなものを遠ざけるために、信頼に足りいづもしがみつくとことのできる権威ある本を必要とする。自分が補助を受けていない子供であるように感じられ、救済に対する不安を感じている。Stram. はこんなふうに述べることがある : 「先生、どこに行かれても一週間以上留守になさらないでください。でないと、私が困ります。何か起こったら私はどこに行けばよいのですか？」と。まるで自分が援助を失ってしまったかのような、自分が依存している人が去ってしまい荒野にひとり取り残され見捨てられてしまうかのような、そういった救済に対する不安がある。またルブリクス “Delusion, wife is faithless : 妻が不実であるという妄想” もみられる。信頼関係 (Stram. の安全の基盤) を共有している人が立ち去ってしまい、自分が暗闇の中で希望のない状態でひとり残されるという恐怖である。この信頼関係というのはなにも妻に限ったものではなく、医者やグル (宗教的指導者) 等との関係にもあてはまる。

Stram. にみられる随伴症状のなかで私がみてきているのは、黒い色を好んだり嫌ったりする傾向である。

ルブリクス

- Delusion, is alone in the wilderness : 荒野に独りであるという妄想。
- Clings, child awakens terrified, knows no one, clings to those near : 恐ろしくなって目が覚めた子供。誰もいないとわかり、手近なものにしがみつく。
- Delusion, animals jump out of the ground : 地面が動物が飛び出してくるといふ妄想。
- Delusion, of black objects and people : 黒い物体や人の妄想。

—Delusion, dogs attack him, of biting his chest : 犬が胸をかもうと攻撃してくる妄想。

—Delusion, that she is always alone : 自分は常に孤独であるという妄想。

—Delusion, frightful animals : 恐ろしい動物の妄想。

—Delusion, sees devils : 悪魔が見える。

—Delusion, is being injured : 傷つけられているという妄想。

—Delusion, sees scepters, ghosts, spirits, on closing eyes : 目を閉じると、王権（王の笏）、幽霊、精霊が見えるという妄想。

—Delusion, familiar things seem strange : 見慣れた物が見知らぬ物に見えるという妄想。

—Escape, attempts to : 脱出を企てる。

—Kill, desire to : 殺人の欲求。

—Fear, in the dark : 暗闇への恐怖。

—Fear, of being injured : 傷つけられることへの恐れ。

—Longing for sunshine, light and society : 陽光や光、社会を切望する。

—Weeping, weeps all night and laughs all day : 一晩中泣き、昼は笑う。

—Company, desire for, alone, while, aggravates : 仲間といることを欲し、独りでいると悪化する。

—Begging, entreating : 乞う、懇願する。

—Praying nights : 夜に祈る。

—Religious affections, Bible wants to read all the day : 宗教への愛着。一日中聖書を読みたい。

—Helplessness, feeling of : 救いのない感覚。

—Black and sombre, aversion in everything that to : 黒いものや地味な陰気なもの全てを嫌う。

—Delusion, naked, he is : 裸であるという妄想。

Kent

—Speech: stammering, exerts himself a long time before he can utter a word : 吃音。言葉を発するまで長い時間奮闘する。

Phatal

—Religious insanity : 宗教的な狂気。

—Shrieking for help(my observation) : 助けを求めて叫ぶ。

—Strangers, presence of, aggravates : 見知らぬ人がいると悪化。